

千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第36週 (9/4-9/10) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		36週	35週	34週	33週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	5	4
インフルエンザ*		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
 下段:定点当たりの患者数
 「定点当たりの患者数」とは
 報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	注意報	千葉市				千葉県
			9/4-9/10	8/28-9/3	8/21-8/27	8/14-8/20	8/28-9/3
			36週	35週	34週	33週	35週
小児科	RSウイルス感染症	↓	32 1.78	48 2.67	26 1.44	11 0.61	313 2.34
	咽頭結膜熱	○	13 0.72	5 0.28	5 0.28	6 0.33	57 0.43
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		27 1.50	19 1.06	18 1.00	12 0.67	170 1.27
	感染性胃腸炎		65 3.61	70 3.89	44 2.44	39 2.17	386 2.88
	水痘		2 0.11	1 0.06	3 0.17	2 0.11	16 0.12
	手足口病	↓★★★	101 5.61	144 8.00	149 8.28	100 5.56	938 7.00
	伝染性紅斑		5 0.28	2 0.11	0 0.00	1 0.06	26 0.19
	突発性発しん		10 0.56	17 0.94	15 0.83	14 0.78	49 0.37
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	ヘルパンギーナ	↓★	36 2.00	42 2.33	43 2.39	36 2.00	308 2.30
	流行性耳下腺炎		4 0.22	5 0.28	7 0.39	2 0.11	34 0.25
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		6 0.21	3 0.11	4 0.14	4 0.14	21 0.10
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.06
	流行性角結膜炎		5 1.00	13 2.60	4 0.80	1 0.25	39 1.11
基幹定点	細菌性髄膜炎(髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	IGRA検査等	レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗原の検出
結核	男性	60歳代	IGRA検査	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	女性	90歳代	病原体等の検出	-	-	-	-

・第36週は、結核3件(157)、レジオネラ症1件(6)、梅毒1件(24)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第36週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より減少し1.78となったが、過去10年の同時期と比べると最多。

<咽頭結膜熱> 前週より増加し0.72となった。過去10年の同時期と比べると最多。

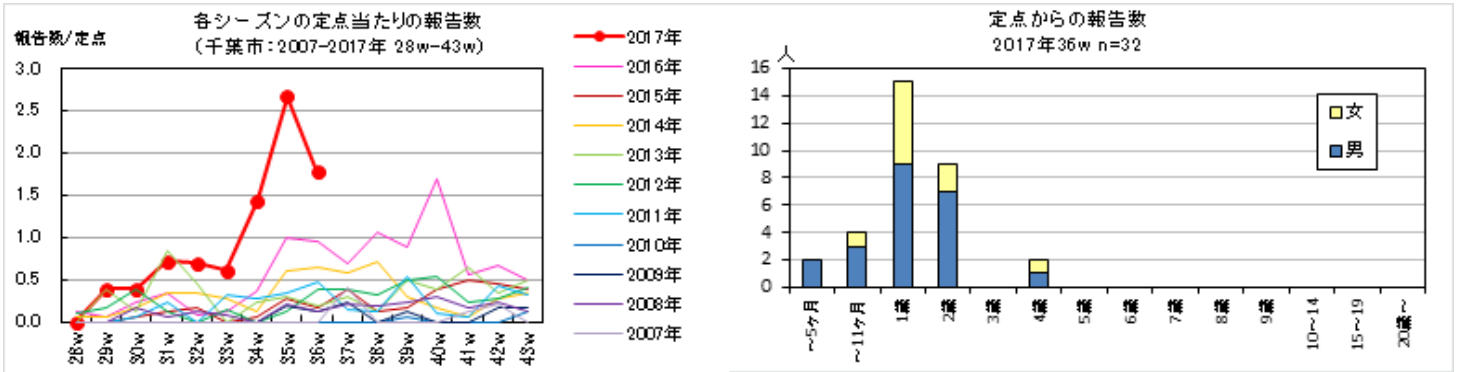
<手足口病> 前週より減少し5.61となった。流行発生警報開始基準値を上回ったままで過去10年の同時期と比べると多い。

<ヘルパンギーナ> 前週より減少し2.0となり、流行発生警報終了基準値と並んだ。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

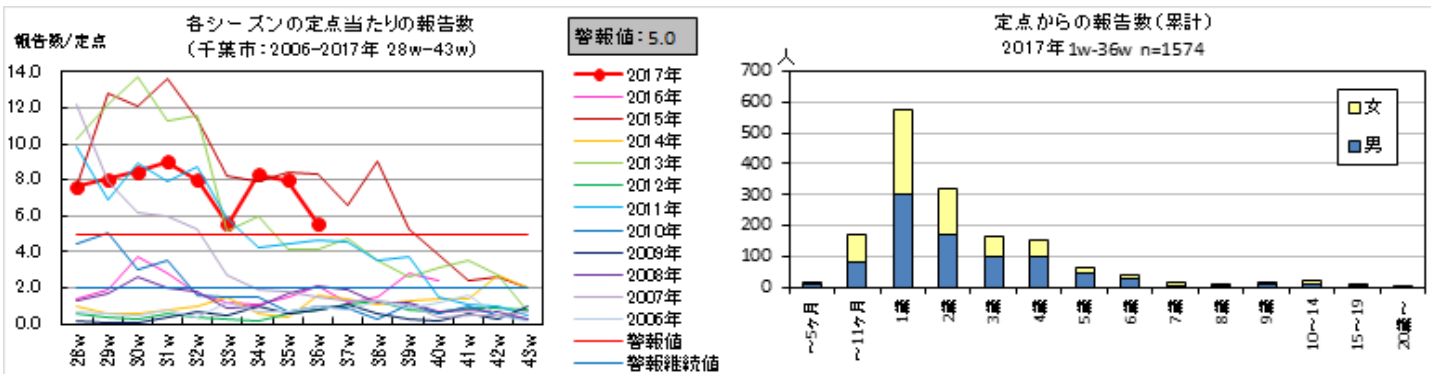
＜RSウイルス感染症＞

全国レベルでは第19週から過去10年の同時期と比べ最多のまま推移しており、第35週も同様で前週より大幅に増加し過去10年の全てのデータと比べて最多となり非常に流行している状況となっています。都道府県別では山形県、徳島県、長崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の2017年第36週は前週より減少し1.78となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままで、非常に大きな流行となっています。区別の発生状況は、緑区(3.5/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズン開始である2017年第36週の報告数(n=32)によると、性別では男性が68.8%(22名)、女性が31.3%(10名)で、年齢階級別では1歳(46.9%:15名)、2歳(28.1%:9名)、6～11か月(12.5%:4名)の順に多くなっています。



＜手足口病＞

全国レベルの第35週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回ったままです。都道府県別では長野県、福島県、宮城県の間で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2017年第36週は前週より減少し5.61となりましたが、流行発生警報開始基準値を上回ったままで、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(11.0/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。他に稲毛区及び緑区で流行発生警報開始基準値を上回っており、中央区及び美浜区で流行発生警報終息基準値を上回っています。2017年第1週から第36週までの累積報告数(n=1574)によると、性別では男性が54.8%(863名)、女性が45.2%(711名)で、年齢階級別では1歳(36.5%:575名)、2歳(20.4%:321名)、6～11か月(10.8%:170名)の順に多くなっています。



＜ヘルパンギーナ＞

全国レベルの2017年第35週は過去10年の同時期と比べると若干少なめとなっています。都道府県別では山形県、秋田県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べて多くなっています。千葉市の2017年第36週は前週より減少し2.00となり流行発生警報終息基準値(2.0/定点)と並びました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(5.5/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。なお、稲毛区で流行発生警報終息基準値を上回っています。2017年第1週から第36週までの累積報告数(n=962)によると、性別では男性が52.1%(501名)、女性が47.9%(461名)で、年齢階級別では1歳(31.3%:301名)、2歳(21.4%:206名)、3歳(13.9%:134名)の順に多くなっています。

